

地域と連携した法人化から、こだわりの餅加工へ展開 (有限会社協和農産)

<法人の概要>

所在地：北海道上川郡愛別町

設 立：平成9年4月

資本金：1,815万円 売上高：1億4,000万円（平成26年）

構成員（議決権）：農業従事者5名（100%）

役 員：4名（うち農作業従事4名）

従業員数：常時雇用者16名

経営面積：109ha（うち所有33ha、借入76ha）

作付作物：もち米77ha、もちきび2ha、そば7ha、飼料作物111ha ほか



田植え



稲刈り

<営農を開始するまでの状況>

- ・（有）協和農産の前身は、昭和49年に設立した協和機械利用組合である。
- ・農家の高齢化や担い手不足が深刻化する中で、後継者が農業を続けていく体制づくりを確立することが最大の目的であり、任意組織の機械利用組合では剰余金をもてないことから、将来を考えると剰余金を備蓄していく法人組織にしなければならないと考えた。
- ・平成7年に北海道農業会議を招き、地区内の農業経営主と配偶者、町内の農業者を含めた研修会を開催。稲作農家が抱える課題解決の一つとして、地域連携型法人の設立にむけ検討を始めた。
- ・前代表取締役を中心に、町・農業委員会・農協等の支援・指導を得ながら、勉強会や視察などを重ね、地区内の農業者に対し、法人設立の目的やメリット等について十分な話し合いと合意づくりを行い、平成9年4月に6戸で有限会社協和農産を設立した。

＜特徴的な取組＞

- ・平成10年に協和地区の農家のお母さん方が農産物加工グループ「ふるさとくらぶ」を結成したことをきっかけとして、平成19年に餅加工施設「協和の里のもち工房 愛ふくふく」、平成20年に直売所を建設し、もち米の加工販売を開始。
- ・主原料の餅米、小豆、黒大豆は減農薬で自社生産し、添加物を使わず素材の味を生かした餅・餡餅を作り、消費者に届けている。
- ・直売所だけではなく、インターネット販売や道内を中心とした催事販売に参加するなど、積極的な販売促進を行っている。
- ・高等支援学校の生徒の実習受入れ。

＜今後の農業経営の展開方向＞

- ・今のいちばんの目標は、協和の里のもち工房「愛ふくふく」の経営の安定を図ること。

＜今後法人化を進めようとしている方へのアドバイス＞

- ・役員として長所、短所を大事にするのは結構だが、経営者としての短所を自覚し、嫌いなことにこそ、進んで取り組まないと問題解決できない。嫌いなことほど、やらねばならない。
- ・役員報酬は既得権ではない。報酬をもらっている以上、役員自らが動かなければならない。労働者の気持ちで働いている役員ではだめ。役員の経営自覚を持つように教育していくこと。



愛ふくふく直売所



母さんたち手づくりのお餅